

令和4年度 第1回 瀬戸内市地域公共交通会議

日時：令和4年5月20日（金）9時30分～11時15分

場所：瀬戸内市役所 2階 大会議室

参加者：大東会長（ノートルダム清心女子大学人間生活学部）

田野副会長（瀬戸内市副市長）

平本委員（両備ホールディングス㈱）

佐藤委員（東備バス㈱）

尾崎委員（(有)ツルヤタクシー）

坂本委員【代理：重田氏】（(有)ネイチャーワールド自動車）

元浜委員（瀬戸内市商工会）

秋山委員（瀬戸内市観光協会）

中尾委員（瀬戸内市老人クラブ連合会）

角房委員（生活交通網をつくる会）

桐畑委員【代理：渡邊氏】（西日本旅客鉄道㈱岡山支店）

三枝委員（一般社団法人瀬戸内市緑の村公社）

松嶋委員【代理：可兒氏】（中国運輸局岡山運輸支局）

松尾委員（岡山県県民生活部県民生活交通課）

杉山委員（備前市市民生活部公共交通課）

日笠委員（瀬戸内警察署）

吉田委員（備前県民局建設部管理課）

出席委員 17名

委任状提出委員 4名

事務局：企画振興課 青砥（課長）、木村（主査）、鈴木（主事）

1. 開会

※新たに就任した委員の紹介（6名）

2. 会長あいさつ

- ・新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和されつつあるものの、感染症の影響を大きく受けた交通事業者の経営は、改善のきざしが見えないままである。さらに、原油価格の高騰、ウクライナ情勢をめぐる不確実性は高く今後の見通しが立たない現状である。
- ・民間バス会社の路線廃止が実施され、4月1日から市営バス虫明・長島愛生園線の運行が始まった。さらに、9月末には、新たな路線が廃止される予定であるため、地域の公共交通をいかに守っていくか重要な局面であると認識している。
- ・本日の会議において、10月以降の市内公共交通網を維持するために市内バス路線の維持について活発な議論を行い、将来の方向性を協議したい。皆様方のそれぞれのお立場から、多くのご発言をいただき、議論を深め、瀬戸内市の公共交通網をどうしていくかを議論することが重要である。

3. 議事

議事1 地域内交通について

- 市営バス事業
- タクシー活用事業
- 前島地域内交通実証事業

---事務局から資料 p.1～3 について説明---

- | | |
|------|---|
| 会長 | 何かご意見やご質問はないか。 |
| 委員 | 車両の購入について、中型バス 56 人乗りを 2 台購入予定である。今年度の登下校便を利用する最大利用者数見込みが 1 台当たり 40 人ということでよいか。来年、再来年の見込みデータはあるか。 |
| 事務局 | 今年度 4 月のみの最大利用者数実績である。来年度の最大利用者数見込みデータはない。 |
| 尾崎委員 | 納得できない。乗るであろう子供の人数を把握してから購入してはどうか。 |
| 事務局 | 人数については、再度確認する。 |
| 委員 | 購入は決定事項か。 |

事務局 すでに入札案件になっており、今月中に入札予定である。

委員 以前の会議までは小型車両を購入と聞いていたが、今回の会議で初めて中型バスを購入するということを知らされた。最大利用者数やランニングコストを考慮すると、利用しやすい小型車両を選択することが多いと思うがどのように考えているのか。

事務局 今年度の児童・生徒の人数は確認して購入している。中型バスは座席 30 人程度、立ち乗り 20 人程度、最大 50 人程度乗車できる。一般的な路線バスのサイズである。年度によって最大利用人数に増減がある可能性はあるが、積み残しが出そうな場合は教育委員会と調整し必ず邑久中学校と邑久小学校の登下校手段を確保する。児童生徒の人数によっては車両台数を増やすなどして対応することも検討する。

委員 中型バスを購入し、運用を考えるということによいか。

事務局 虫明・長島愛生園線では中型バスを購入する。登下校で積み残しが出る年度においてはそれ以外の方法を検討する。車両については中型バス 2 台で決定している。

委員 資料の内容から変更ないということに理解した。

委員 コロナ禍以前、弊社では日本 IT ビジネスカレッジの生徒の移動を中型バス 2 台で運行していた。虫明・長島愛生園線が市営バス化されるということでその運行はすべてキャンセルされ、その利用者が市営バスを利用している。定員 50 人程度では足りないのではないか。この内容についても会議で初めて分かった。日本 IT ビジネスカレッジの生徒が市営バスを利用することはどう考えているか。市営バスの運行に協力させて頂いているが、こちらで用意していたバス車両 2 台が空いている状況となっている。コロナ収束後を見越して準備していたところが、この市営バス化により、事業が無くなっていることをご理解いただいたうえで、人数調整をどうされているか聞きたい。コロナ禍前は 70 人が利用していた。これから状況が良くなれば増える可能性もある。市営バス化により運賃が無料や 100 円になった場合、弊社への委託依頼は来ないと思う。そのあたりも含めて車両の購入など、どのようにお考えか。

事務局 70 人程度になると中型バスで運行する市営バスには乗りきらない。そうなった場合は、IT ビジネスカレッジが専用車両を準備するなど対応して頂くことになる。市営バスは公共交通なので利用して頂く分には問題ないが、70 人待っているからといって増便す

ることはできない。ある程度の人数なら利用して頂けると考えている。あらかじめ定員を超過していることが判明している場合であれば、IT ビジネスカレッジで専用車両を準備していただくべきとの認識である。

事務局

IT ビジネスカレッジは、虫明・長島愛生園線沿線の尻海地区にある学校である。邑久駅からの登下校で利用されている。虫明・長島愛生園線を市営バス化するにあたって、学校の方から市へこの路線を生徒の登下校で利用することは可能かという相談があった。数十人規模での利用で、学校側と協議し、市営バスを市民の方が利用できない状況になると困るということでご理解を頂いている。市営バスを利用して頂けるのはありがたいが、市民の利用の妨げにならないように配慮して頂けることになっている。市民利用の妨げになる場合は、学校側で専用車両を準備することも検討しながら、現在は一部の生徒に利用して頂いている。今後、生徒の利用者が増える可能性はあるが、すべての生徒を市営バスだけでカバーするのではなく、学校側に移動手段を準備してもらうことも考えながら登下校手段の確保について、学校側と協議を進めていきたい。

委員

理解できない。そのような考えなら、市営バスの記載に何人以上乗車した場合は生徒が乗車できないと一言入れてほしい。そのような基準が分かっているならば、弊社でも運行準備ができる。弊社所有の中型バス 2 台は売却も考えている。急に学校から中型バスの運行が必要になったといわれても困る。利用者が一定数を越えた場合は市営バスに乗車できないことを学校側へ伝えて頂き、日本 IT ビジネスカレッジの生徒は利用者が多い場合は市営バスを利用できなくなる旨を資料に記載して頂きたい。

委員

牛窓(邑久駅・北回り)西大寺線が市営バス化するという事で、牛窓地区の方や利用者が大変喜ばれている。資料で住民から一部の路線では土日祝の運行がないといった意見が挙がっていたようだが、観光のため土日祝についても運行して頂きたい。コロナが収束してくれば観光側からも利用促進していく。新年度から観光協会では交通部会を立ち上げるため、協力して頂きたい。先ほどの委員からの意見もコミュニケーションがとれていないことが問題で、民間の交通事業者の経営を圧迫しないことも重要なことである。観光協会からは、特に土日祝の運行を希望する。別件ではあるが、学生 (IT ビジネスカレッジの生徒) が電車とバ

スを併用している。電車が遅れたときに市営バスへ乗り遅れることがまれにあると聞いており、何か対応できないか相談を受けている。電車が遅れた場合、待機時間の設定や連絡を取り合って連携する仕組みなどで対応できないか。ダイヤが組まれて運行しているため難しいと思うが、検討して頂きたい。

事務局

土日祝の運行については、経費や運転手確保の面を踏まえ、検討させて頂きたい。電車が遅延した場合の対応については、電車の遅延情報を入手することが難しいことや、市営バスの他のお客様へ影響が出るため、調整は難しいと考えている。遅延した電車が駅で目視できる状況であれば、運転手の判断で対応して頂く。市営バスは公共交通であるため、JRの遅延に対応することは難しいと考えている。

委員

調整が困難であるという状況は理解しているが、考えてほしい。携帯電話で運転手と連絡を取り合うなどできることがあるのではないかな。

委員

JR 邑久駅は無人駅になっている。電光掲示板などで遅延情報を掲示できるかを JR と協議できないかな。

前島地域内交通において、将来的には観光客が有償利用できるようになるといった記載があり、この需要が多くなれば、フェリーへ積む車両台数が少なくなるのではないかな。車で島へ渡っていただく方が、瀬戸内市緑の村公社にはメリットがあるのではないかな。個人的には前島地域内交通の利用対象は拡大せず、島民利用のみにした方が良く考えている。

委員

ご心配いただき非常にありがたい。前島フェリーの運航は、近年赤字で推移しており、経営的にはとても厳しい。フェリーを運航する上で、空で運航するよりも自動車を乗せて運航したほうが良い。フェリーで前島にくる観光者は、前島に行けば何かあるだろうといった認識で来られる。実際に車を牛窓において、フェリーに乗って歩いて観光されることもある。この時、観光客からタクシーやバスがないか尋ねられる。その際に、前島地域内交通があるのに、歩いて観光させるのはいかがなものかと思っている。また、島内にレンタサイクルはあるが、高齢者が自転車を利用するのは危険である。前島地域内交通で来訪客の案内をしたいという思いは以前から持っている。来訪者へのサービスとして、有償で実施しても良いと考えている。将来的にはバスで島内の観光地を巡るなどして、夕日の見える丘を見に行くことができるようになれば良いと前向きに考

えている。もう 1 点別件では、自動車で島内観光も良いが、船の上から牛窓の海を見る観光も検討したいと考えている。フェリーに車両を積むと料金がかかるため、お客様が牛窓側に車両を置いて前島に渡ることがある。島へ来た方が目的を達成できるように努めたい。

- 会長
事務局 虫明・長島愛生園線で 56 人を超えることが考えられるか。
IT ビジネスカレッジの生徒が増えれば、定員を超える可能性はある。
- 会長
事務局 瀬戸内市営バスは公共交通なので、積み残しを利用者の自己責任にするのはいかがなものか。タクシー事業者へ積み残し対応で協力をお願いすることもあると思うが、そのあたりはどうお考えか。
非常に難しい問題だと考えている。車両の定員は 56 人で学生 70 人全員が利用することがあらかじめ把握できているのであれば、毎回学校専用のような状態での運行は難しいと考える。
- 会長
事務局 事前に日本 IT ビジネスカレッジの利用人数を把握して、積み残しを回避することについて、交渉することは可能か。
現在も、IT ビジネスカレッジと随時調整している。今後、大幅に学生が増えれば、登下校手段の確保を市に丸投げすることはできないということは学校側も認識しているため、関係者間で調整し、積み残しが発生しないように対応する。市営バスに学生全員が乗車すれば市民が利用できなくなる事態を避けなければならないことは学校側も理解されている。お互いにどのような移動手段が良いのか調整していく。
- 会長
委員
事務局 利用者が増加すれば、立ち席で無理に詰めて乗車することも想定される。何か事故が起きれば取り返しのつかないことになるため、安全面にご配慮頂きたい。
中型バスの定員が 56 人は座席数が 56 ということか。
運転手が 1 人、座席 28 席、残りが立ち席で定員 56 人である。
- 委員
事務局 立たせて乗せる想定で人数を決定しているということか。
定員の基本的な考え方として、路線バスとしての運行を想定しており、立ち席まで含めた人数が定員である。座席が 56 席ということではない。
- 会長 他にご意見はないか。なければ次の議事に進む。

議事 2 バス路線の維持確保について

- 両備バス路線牛窓（邑久駅・北回り）西大寺線廃止への対応
- バス停「大富東」の移設について
- 運賃改定・フリー乗車定期券の導入について

---事務局 木村主査から資料 p.4~12 について説明---

会長 何かご意見やご質問はないか。運賃について、1日当たり200円から1乗車100円への変更理由は何か。

事務局 令和4年4月1日から虫明・長島愛生園線が市営バスとして運行している。1日乗車券については、運転手が毎回直接説明し、手渡しをしている。ハイエースタイプの車両であれば定員が8人であったが、車両が大きくなると利用者数が多くなり、1日乗車券の手渡しに時間がかかって運行の遅延につながるため、一日乗車券を廃止し、スムーズな運行を目指すことが目的である。

会長 おかやま愛カードについては、免許返納者にメリットがあるはずだったが、一般の人と同額になっており、何のために免許返納したのかわからなくなるのではないか。

事務局 現行の運用であれば、免許を返納しておかやま愛カードを利用すると運賃が安くなるといった免許返納の動機付けの役割があった一方で、もともと免許証を取得していない高齢者については割引が受けられないという意見もあった。この度1乗車100円といったわかりやすい運賃設定で、みんなが安い運賃で乗れるという免許返納の動機付けの役割も担っていると考えている。

委員 運輸支局の方にお聞きしたい。身体障がい者の運賃は原則半額にする必要があるか。

委員 緑ナンバーで運行されている事業者であれば運送約款に定義が記載されている。バスは半額、タクシーは1割引をしないと違法というわけではない。1乗車100円は明らかに利用しやすい金額と考えられるため、障がい者手帳を持っている方や愛カードをお持ちの方が一般の人に比べて運賃割引を受ける必要があるといった指摘は不要と個人的には考えている。

委員 私は牛窓地域出身である。4月26日に市が実施した、牛窓（邑久駅・北回り）西大寺線の市営バス化についての意見聴取会で、牛窓地域の行政委員は概ね賛成した。運賃が安くなることについては非常に有難い。牛窓地域行政委員の数名が今城地区のことを心配されていた。牛窓地域の住民は牛窓（神崎・南回り）西大寺線もあり、岡山市方面へ移動できるが、今城地区はどのように路線廃止区

間をカバーするのにか心配されていた。虫明・長島愛生園線の市営バス化について、裳掛地区の高齢者が喜ばれていた。路線運行を継続することが重要だが、一方で導入時に運賃を安価にし過ぎて維持できなくなるのではないかと懸念される声があった。

事務局

大富駅周辺の地区でも地域住民の方から意見を聞く会を開催した。今城地区においては、既存のハイエースの市営バス路線を環状化して、市の中心部（邑久駅方面）への移動手段の確保を検討している。この案について、今城・豊原地区の行政委員に理解を頂いている状況である。虫明・長島愛生園線が利用しやすくなったといった高齢者からの声を頂きありがたい。1, 2年でやめることになるのは意味がないと思っているため、いろいろご意見を頂きながら随時改善を図りつつ、長く継続して運行したい。

委員

6ページを説明して頂きたい。この運行内容ありきということか。私は交通事業者であるため、もう少し掘り下げた内容を聞きたい。前日も発言したが、今まで交通事業者へ何の相談、打診もなかった。本会議が報告会であれば、出席する意味がない。質問に対して明確に答えられない報告会であれば、メールで結構である。なぜ両備バス以外の事業者へ相談がないのか。案としてあっても、他で決まっているなら会議の出席は必要ない。会議の趣旨が分からない。

会長

委員から1点目のご質問は6ページの運行内容案はどのように決まったのか。2点目は運賃改定等について事前協議をするのが一般的ではないかといったことである。議論せずに決まるのであれば、この会は必要ないのではないかとといった質問である。事務局からお答えして頂きたい。

事務局

6ページについては案ということで会議資料に挙げさせて頂いた。ご意見などがあれば頂き、今後修正できる点については対応したい。

委員

みなさん疑問に思うところがあるのではないかと。車両購入することがこれで決まれば同じことである。座席についても、立ち席ありの運行であり、子供や高齢者がいた場合は座席を譲ると思うが、それについてもどう考えておられるか。今までは民間事業者が運行していたが、公営になった場合はどう対応するのか質問が出てくるのではないかと。8人乗りであれば安全確保できるのではないかと。車両が大きくなれば、安全面の問題などこれから出てくると思うが、それを5000万円で購入するとどうなるのか。逆に言えばリースで購入した場合の費用は公表するのか。どれくらい予算で、こ

の事業を実施したか。例えば、今年度 4 月に運行開始した虫明・長島愛生園線の事業予算や、どういったことを実施しているかをできるだけ数字で公開するということだが、皆さんはご存じなのか。車両購入や座席の問題も、どのようにお考えか。予算規模によって、ハイエースのリース車両 2 台もしくは 3 台にしてはどうか、それよりも多いところは既存の観光バス事業者へ委託するなどを協議する場だと思って参加している。3～4 回出席しているが、今まで明確な答えを頂いていない。

事務局 車両購入に関し虫明・長島愛生園線については中型バス 2 台を今年度中に購入することが決定している。6 ページの牛窓中央線の運行にあたり将来的には専用車両を調達する。虫明・長島愛生園線に導入する中型バスは座席・つり革など合わせて定員 56 人であるが、小中学生や沿線の専門学生の利用状況を踏まえ、事故が無いように安全に配慮して運行していきたい。

委員 前回から何度も申し上げているが、学校については別で考えてはどうか。そうすれば、市営バスの利用者が大幅に増加しないのではないか。提案させて頂いたが、回答がなく、「決まったことですから」と言われるため、会議の意味があるか疑問に思う。

事務局 現状では、市営バスによる小・中学校の登校は定員内で運行できている一方で、行事などで下校時間が早くなったり、遅くなったりする場合には、教育委員会から交通事業者へ専用の貸切バスを依頼する状況だと聞いている。

委員 委託内容や金額など、また報告頂きたい。中型バスを 5000 万円で購入する理由をご提示頂きたい。

委員 これは議員の仕事でもあると考えている。税金を使った事業であるため、運賃 100 円で大丈夫か心配している。運行をスタートして良いと思うが、経費の問題などあると思うので決算書を出して税金の使用用途を明らかにすべき。改善する必要があるれば民間の協力を得る。コミュニケーションはとっていかなければならない。経費などの部分は明確にしたほうがよいと考える。

会長 他にご意見はあるか。

委員 協議事項は地域に路線バスを残していくことが難しくなり、弊社の方から市へ依頼したことから始まっている。この場で真摯に協議して頂き、感謝している。我々としても引き続き協力できる部分は協力していきたい。令和 4 年 4 月から虫明・長島愛生園線が市営バス化され、市と協議しながらこれまでの運行で得た知見など

をアドバイスさせて頂きたい。牛窓（邑久駅・北回り）西大寺線においても、民間コストで路線バスを維持するのが難しい中で、市営バス化を提案させて頂いている。両備グループとして今後も関わらせて頂けるのであれば、牛窓中央線が運行開始した後も、運行だけでなく利用促進についても協力したい。中型バスで運行を継続する中でコスト的にどうなのかといった議論はあるが、路線バスとして整理券があつて、車内放送があつて、押しボタンがあつて、さまざまな停留所に停まり、長らく運行してきた路線であり、地域の方に受け入れてもらうためにはそれに近い車両を導入することも考えられる。個人的には瀬戸内市もこのような考えで判断されたと推測している。車両の運用などこれまでの運行で得た知見やノウハウを引き続きご提供したいと考えている。運賃については、他自治体のコミュニティバスにおいて一律 100 円で運賃を設定していて、コスト的に見合わなくなり、運賃を値上げしないといけなくなることを耳にすることもある。今回は 1 日あたり 200 円から 1 乗車あたり 100 円へ変更することが実質同額と考えられたと思うが、見え方によっては値下げにも見える。1 回下げた運賃は値上げすることが難しいところがあることを踏まえ再度検討して頂きたい。

委員 電車の乗車率は 100%を超えることもあるが、乗合バスと考え方がちがうのか。定員 56 人というのは、運転手が数えるのか。電車は切符の購入枚数など改札で確認できると思うが、乗合バスは途中で乗降があつた場合、バスに乗っている人数は誰が数えるのか。

委員 議論されている乗車定員は車検証上の定員のことである。乗車定員は座席数やつり革の数、スペースを基に運輸局が検査して、最大 56 人であれば安全に乗車できる人数のことを指している。運輸支局の立場から申し上げますと、56 人を超える乗車は適切でないと判断する。安全に乗っていただくための乗車定員なので、守って頂きたい。人数のカウントについては、整理券の枚数であるとか、年に数回調査員（事業者の事務員、市の職員、委託先の調査会社）が目視で確認したりすることもある。最近では、IC カードのデータも使われることがある。

委員 定期券について、運転手の負担を減らすために始められるようだが、金額の割引率は決定事項なのか。

事務局 定期券の割引率については条例で定めるため、議会での議決が必

要である。本公共交通会議で合意を得て、議会へ関係する議案を提出する。定期券について、運転手の負担軽減ではなく、通勤・通学利用者や、特に障がい者の方からの是非定期券を発行してほしいといった要望に応えるため、定期券という仕組みを導入した。

委員 金額が安価になったため、障がい者の運賃は 100 円の設定で割り切るといふことか。障がい者の割引はせず、定期券は割り引くといふことか。

事務局 1 乗車当たり、100 円の設定は、割引後の安価な運賃に一般の運賃を合わせるとの整理である。また定期券についても同様の整理である。

委員 本会議で承認を得ても、その後議会で承認が必要であれば、ここで提案しないで頂きたい。議員が決定すれば良いのではないか。最終的に議員が決定するならば私は本会議に出席しない。

事務局 公共交通会議とは公共交通に関する皆様からご意見を伺うのが趣旨である。頂いたご意見を取りまとめて議会に提出するという手順なので、ご理解頂きたい。

会長 時間的な期限はあるが、議論を反映させられる流れになるようにお願いしたい。特にご意見がなければ、先ほど協議頂いた中で合意の確認事項があるので事務局から説明をお願いしたい。

---事務局から資料 p.13 について説明---

会長 合意の確認事項について異議はないか。

委員 4 つともまとめた上での合意ということが良いか。皆様の合意が得られるのならば良いが、運賃のところをどう捉えるのかが気になるところではある。皆様の異議がなければ記載通りで良いと思う。

会長 4 つまとめたの合意をお願いしたい。ご異議はあるか。

会長 無いようなので、合意を確認したこととする。事務局は必要な手続きを進めて頂きたい。次回からはできるだけ今回出た意見を、反映できるような資料をご提示頂きたい。

4. その他

委員 観光協会から一言申し上げたい。これからは空飛ぶ時代である。MASC の作製企業と観光協会が交流している。海、陸も大事だが、これからは空の時代なのでご協力をお願いしたい。

事務局 ほかに連絡等ないか。

次回交通会議は 8 月中旬から 9 月上旬を予定している。日程等については、改めてご案内させていただく。

議会の閉会にあたり田野副会長にご挨拶いただく。

5. 閉会

副会長

長時間ありがとうございました。議論にあったが、市民の足をどう確保していくかが大事である。議論頂いた内容をもとに予算の確保や議会での承認を得ることでご理解頂きたい。

虫明・長島愛生園線については、4 月 1 日から市営バスとして無事に運行開始できて安心している。9 月末の廃止が決定している牛窓(邑久駅・北回り)西大寺線の廃止についてのご議論を頂いたが、市民の足の確保ということで運行案の内容をもとに従来の形でやらせて頂く。それにあたり当面運行は東備バスにお願いするが、将来的には運行事業者をプロポーザルで公募していく。

今後、市民の皆様が利用しやすい料金体系、ダイヤなどを工夫しながら鉄道を含めた公共交通の利用促進につなげていきたい。皆様方からご意見やお知恵をお借りすることになると思うが、よろしくお願ひしたい。